

桃太郎

あらすじ

昔々、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。

おじいさんが山で芝刈りをしていると、山のてっぺんからゴロンブラゴロンブラコと大きな桃が猛然と転がり落ちてきて：

人物

桃太郎 (0) (10) (15)

おじいさん (60)

おばあさん (60) (70) (75)

鬼₁、鬼₂、鬼₃

村人 1、2

桃太郎の家来たち

八咫鴉

○家・外

茅葺き屋根の家。

Ｚ（ナレーション）「昔々あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました」

○里山

籠を背負ったおじいさん（60）、鎌で木の枝を切っている。

Ｚ「おじいさんが山で柴刈りをしていると…」

何やら大きな音。

坂の上から巨大な桃がゴロンブラコゴロンブラコとおじいさんめがけて猛スピードで転がってくる。

おじいさん「！！」

○河原

おばあさん（60）、川の水で洗濯物を洗っている。

川上からおじいさんの死体が流れてくる。

○家・庭

巨大な桃が置かれている。

包丁を握りしめたおばあさん、桃と対峙している。

○同・中（回想）

おばあさん、おじいさんの亡骸にしがみつき、泣き崩れている。

村人「、、やってくる。

村人「、、運んできた大きな桃を家の戸の前に置く。

おばあさん「…？」

村人「どうやら桃に轢かれたようですわ」

○（戻って）同・庭

おばあさん、包丁を突き上げ、

おばあさん「（声を震わせ）おじいさんの仇！」

ぐさっ！　ぐさっ！

おばあさん、桃を抉るように何度も刺す。

と、何か異変に気づく。

おばあさん、素早く包丁で桃の果肉を抉り出していく。

床に散らばる果肉の塊。

おばあさん、包丁を放り投げ、両手で果肉をこじ開ける。

おばあさん「(はっと息を呑む)」

桃の中から赤ん坊が姿を現す。

○同・中

㊦「桃から生まれた男の子は桃太郎と名付けられました」

おばあさん、囲炉裏の前に座り、胸に抱

いた桃太郎(○)をあやしている。

おばあさん「坊やおじいさんの生まれ変わりじゃ」

桃太郎、にこにこ笑っている。

㊦「桃太郎はおばあさんに可愛がられ、元気に育っていきました」

○同・庭(10年後)

日差しがカンカンと照りつけている。

桃太郎（10）、薪割りをしている。

桃太郎、汗を拭い、斧を勢いよく振り下ろす。

見事に真っ二つに薪が割れる。

おばあさん（70）、やってくる。

おばあさん「桃太郎や。もうよい。少し休んどくれ」

×

×

×

桃太郎とおばあさん、縁側に座って饅頭を食べている。

桃太郎「おばあさん」

おばあさん「なんだい。桃太郎」

桃太郎「おじいさんはなぜ亡くなったのですか？」

おばあさん、ぎくりとする。

おばあさん「…桃太郎や。なぜそんなことを聞くのじゃ？」

桃太郎「村の者が私にいったのです。おじいさんの命と引き替えに私は桃から生まれたのだと」

おばあさん「(慌てて)む、村の者のいうことなど聞かなくてもよい」

桃太郎「はあ」

おばあさん「鬼の仕業じゃ」

桃太郎「鬼？」

おばあさん「鬼ヶ島には人間を殺して金銀財宝を奪い取る恐ろしい鬼がいる。おじいさんはその鬼に殺されてしまったんじゃ」

桃太郎、その言葉を聞き、

桃太郎「(じっと考え込む)…」

○同・外(5年後・朝)

陣羽織姿の桃太郎(15)、鉢巻きを締めている。

おばあさん(75)、そわそわした様子で桃太郎を見ながら、

おばあさん「桃太郎や。どうしてもいくとい

うのか？」

桃太郎「はい。いってまいります」

桃太郎、腰に差した刀を握り締め、凛とした眼差しを浮かべる。

その背中で「日本一」と印された旗がゆるめいている。

おばあさん「(哀願して) 桃太郎や」

桃太郎「はい。何でしょう」

おばあさん「あんたはおじいさんの仇を取るという。じゃが、私は仇なんかどうでもいい。お願いじゃ。私のそばを離れんでおくれ」

桃太郎「ですが、おばあさん。このままではいつまた村の者が鬼に襲われるかわかりません。私はその危険を取り除かなくてはならないのです」

おばあさん「…」

桃太郎「おばあさん。どうか心配しないでください。必ず鬼を倒して無事おばあさんのもとへ戻ってまいります」

おばあさん「(諦めて)：そうかい。どうして
もいくというなら、これをもっておいき」

おばあさん、巾着袋を差し出す。

桃太郎「：？」

おばあさん「きびだんごじゃ。食べると力が
つく」

桃太郎、巾着袋を受け取り、腰に巻きつ
ける。

桃太郎「では、いってまいります」

○道

ズ「(バニラカーの歌)♪V・A・N・I・L・A
バニラ V・A・N・I・L・A ムニラ」

桃太郎、のしのしと歩いている。

ズ「♪バーニラバニラバーニラ 求人
バーニラバニラ 高収入」

犬、道ばたで桃太郎を見ている。

ズ「♪バーニラバニラバーニラ 求人
バーニラバニラできびだんご」

×

×

×

桃太郎、犬を従えて歩いている。

ズ「♪バーニラバナニラバーニラ 求人

バーニラバナニラ 高収入」

猿、道ばたで桃太郎一行を眺めている。

ズ「♪バーニラバナニラバーニラ 求人

バーニラバナニラできびだんご」

×

×

×

桃太郎、犬と猿を従えて歩いている。

ズ「♪バーニラバナニラバーニラ 求人

バーニラバナニラ 高収入」

雉、小枝にとまって桃太郎一行を眺めて

いる。

ズ「♪バーニラバナニラバーニラ 求人

バーニラバナニラできびだんご」

○ポスター

桃太郎のおもむきで、
桃太郎といふ名に、
なまこをたべました。



一方的な「めでたし、めでたし」を、生まないために。
広げよう、あなたがみている世界。

2013年度「新聞広告
クリエーティブコンテスト」
結果発表
このコンテストは、新聞広告のクリエイティブ性を高めることを目的として、毎年開催されています。今年度は、全国から多くの応募があり、その中から優秀な作品を選出しました。本日は、その結果を発表いたします。受賞作品は、新聞広告の魅力を最大限に引き出した、斬新で創造的なアイデアが数多く見られました。また、社会問題や環境問題など、社会への貢献をテーマとした作品も数多く見られました。このコンテストを通じて、新聞広告のクリエイティブ性を高め、社会への貢献を促すことを目指してまいります。

■主催：日本新聞協会
■協賛：各新聞社
■お問い合わせ：日本新聞協会 広報課
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-3265-1111 FAX: 03-3265-1112
E-MAIL: info@nippon-shimbun.or.jp

○鬼ヶ島・全景（数日後・夜）
絶海の孤島。

○同・砦の中
鬼たち、恐怖の大王だ！ 逃げろ！ な
どと悲鳴をあげながら逃げ惑っている。
鬼は、呆然と立ち尽くしている。
その手には芥川竜之介作「桃太郎」の文

庫本が握りしめられている。

鬼「（震える声で）人間の赤子を宿した常世の桃の木がその実を落としたとき、恐怖の大王が鬼ヶ島全土を襲うだろう：ああ！芥川竜之介の予言は本当だったのだ！」

○同・岸

一艘の舟が岸壁につけられている。

舟から降りる桃太郎と犬猿雉。

そして熊。

○同・砦の中

荒ぶる熊。

鬼たちの死体が散乱し、一面血の海と化している。

×

×

×

鬼、幼い息子を抱きかかえ、必死に逃げている。

と正面に桃太郎と犬猿雉の姿。

背後には荒れ狂う熊。

鬼こ、きよろきよろと辺りを見回し、岩壁にできた隙間を見つける。

鬼こ、息子を床におろすと、

鬼こ「隠れてろ」

息子、じっと鬼こを見つめる。

鬼こ「早くしろ」

息子、いわれるがまま岩壁の隙間に潜り込み、身を隠す。

桃太郎ら、鬼この姿を捉える。

桃太郎、やってきて、鬼こと対峙する。

鬼こ「お、お願いです。どうか命だけは…」

桃太郎「やれ」

犬、鬼こに飛びつき、胸に噛みつく。

鬼こ、肉がちぎれる。

鬼こ「(絶叫する)」

猿、鋭い爪で鬼この体を引っ搔く。

鬼この体から血が吹き出る。

雉、鬼この目玉を啄む。

鬼心の眼球がくり抜かれ、鬼心の息子の
前へと転がっていく。

呆然とする息子。

直後、熊の獰猛な鳴き声と鬼心の断末魔
が響く。

×

×

×

桃太郎一行、金銀財宝を荷車に積んでい
る。

声「桃太郎！」

桃太郎、振り返る。

鬼心、血まみれで立っている。

鬼心「見たぞ…桃太郎…」

桃太郎「…？」

鬼心、手鏡を持っている。

鬼心「(手鏡を見せつけ)これはあらゆる過去
を見通すことができる玻璃の鏡。…桃太郎。

この中にお前のすべてが映っているぞ」

桃太郎「鬼め。何が映っているというのだ？」

鬼「お前は生まれ落ちたときから咎人であり、破滅を遂げているのだ。桃太郎よ！お前の呪われた出自をその目でしかと確かめるがいい！（高笑いをする）」

桃太郎「ほぎけ！」

桃太郎、刀を抜いて鬼に向かっていく。

桃太郎、鬼に一太刀浴びせる。

○海

水飛沫が激しく舞い上がる。

桃太郎一行が乗った舟が荒波に浮かんでいる。

舟には金銀財宝が積まれている。

桃太郎、達成感に満ちた顔。

○おばあさんの家・外（数日後・朝）

朝日が燦々と降り注いでいる。

籠を背負ったおばあさん、戸から出てくる。

おばあさん、はたと立ち止まる。

道の向こうから桃太郎が宝を積んだ荷車を引いて歩いてくる。

おばあさん「（思わず叫ぶ）桃太郎！」

桃太郎、無邪気な笑顔を浮かべる。

○村の集会所（夜）

村の者たち、宝の山を前にして宴をしている。

桃太郎、肉に魚にと豪勢な料理にありついている。

○フラッシュバック

鬼「桃太郎よ！ お前の呪われた出目をその目でしかと確かめるがいい！」

○（戻って）集会所

桃太郎「…」

桃太郎、おもむろに立ち上がる。

桃太郎、宝の前に向かう。

桃太郎、浄玻璃の鏡を手にする。

○里山（15年前）

籠を背負ったおじいさん、鎌で木の枝を切っている。

と坂の上から巨大な桃がおじいさんめがけて猛スピードで転がってくる。

おじいさん「！！」

○（戻って）集会所の外

桃太郎、青ざめた顔で浄玻璃の鏡を見つめている。

鏡の中からおじいさんの断末魔。

おじいさんの声「うわあああああああああ

ああ！！！」

声「こんなところで何をしとるんじゃ」

桃太郎、振り返る。

おばあさんが立っている。

おじいさんの声「う、う、うわああああ！
：

う、う、う、う、うわああああ！」

桃太郎、鏡に映る光景をおばあさんに見

せ、

桃太郎「：おばあさん、これはいったいどう
いうことですか？」

おばあさん「：」

桃太郎「私が：おじいさんを殺したのです
か？」

おばあさん「違う！ 事故じゃ。あんたは何
も悪くない。おじいさんが死んだのは事故
だったんじゃない」

桃太郎、少し考えて、

桃太郎「それでは、鬼というのはいったい何
者なのでしょう。鬼はおじいさんを襲って
いないのですか？」

おばあさん、押し黙る。

○鬼ヶ島・砦の中（回想）

鬼たち、宴を楽しんでいる。

×

×

×

鬼「子供の鬼たちに話を聞かせている。

鬼「よいか。人間というのは、理由なく我々を目の敵にし、その上、嘘つきで、強欲で、残忍で、実に恐ろしい生き物なのだ。決して近づいてはならん」

× × ×

鬼「と鬼「、デスクワークしている。

鬼「(鬼「へ)先生。どうです？ このあと一杯」

鬼「「いいですな」

× × ×

鬼「、息子を肩車している。

息子、無邪気に笑っている。

○ (戻って) 集会所の外

鏡には鬼たちの平和な暮らしが映し出さ

れている。

桃太郎「(慄く)鬼は：鬼はほんとうに悪者な
のですか？ おばあさん！」

おばあさん、堪らなくなり、桃太郎から
鏡を取り上げる。

おばあさん、鏡を地面に叩きつける。

鏡が粉々に割れる。

おばあさん「桃太郎や。年寄りを困らせない
でおくれ。こんなことは忘れて、明日から
また元の暮らしを始めるんじゃない。な。そう
しておくれ」

桃太郎「…」

○おばあさんの家・桃太郎の部屋

桃太郎、胡座をかき、青ざめた顔で芥川
竜之介作「桃太郎」の文庫本を見ている。

桃太郎「(読みあげる)一万年に一度結んだ実
は一千年の間は地へ落ちない。しかしある
寂しい朝、運命は一羽の八咫鴉になり…」

○山頂（15年前）

天上から地上へ根を下ろす巨大な桃の木。
枝にたくさんの桃の実がなっている。

八咫鴉、天上から現れ、枝にとまる。

八咫鴉、まだ熟れきらない桃の実を啄む。

桃の実、枝から落ち、山麓へ転がって
いく。

八咫鴉、奇声に似た鳴き声をあげながら、
天上へ舞い戻ってゆく。

○（戻って）桃太郎の部屋

桃太郎、文庫本を閉じ、

桃太郎「（愕然として）それでは…神の気まぐ
れによって、私は呪われた生を授かり、無
辜の民を虐殺したというのか」

○同・外

静寂が包み込んでいる。

○同・おばあさんの部屋の前

桃太郎、ふすまをそつと開ける。

おばあさん、布団で眠っている。

桃太郎「(寂しげに)おばあさん…どうかお元気で…」

○同・庭

陣羽織姿の桃太郎、山の頂を挑むように見上げ、きつく鉢巻きを締める。

バナラカーの曲が流れて…

(おわり)